

ホームルーム活動と総合的な学習の時間の実践報告

— 「学年作り」を意識して—

第3学年 小田原健一

1. はじめに

この実践報告は本校第42回生を担当した学年団の3年間の取り組みの一端である。3年前に学年主任として新入生を迎えた時、卒業時に「この学校を選んで良かった」と生徒が思える学年にしたいと願っていた。そのためには進路指導や生徒指導を充実させるとともに、本校が校訓として掲げている「あたたかい人間になろう たくましい人間になろう おおらかな人間になろう」を意識した学年の雰囲気作りが大切だと考えた。この雰囲気作りのためにホームルーム活動と総合的な学習の時間を学年一体となって活用することとした。

2. ホームルーム活動と総合的な学習の時間の活用について

『学習指導要領解説 特別活動編』によると、ホームルーム活動の目標は「ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。」と記されている。また、ホームルーム活動を含む特別活動と総合的な学習の時間の関連については、「生徒が自主的あるいは主体的に物事に取り組む態度を養う点を目標としている」という共通点も示されており、「両者の関連を図った指導を行うことが重要である。」との一文もある。しかし、これまでの教員生活でホームルーム活動や総合的な学習の時間を通して上記の目標を達成することに難しさを感じていた。その要因としては、これらの時間を有効に活用するためには、それなりの準備が必要となるが、教科の授業の準備もあるなかで、特にホームルーム活動の時間の準備に十分な時間を取れないことがあった。そこで、学習指導要領のホームルール活動の指導計画を読んでもみると、「学校の教師全体の創意工夫を生かすことにより、高等学校入学から卒業までを見通して、学校の目標を達成するにふさわしい指導計画とすることが大切である。学校全体の指導計画をもとにして、学年、ホームルームの実態や学科の特色に応じ、ホームルーム担任や該当学年の教師などが創意工夫を十分に生かし、それぞれの指導計画を作成する必要がある。」とあった。私はこの一文を確認して各担任が個別にホームルーム活動の準備をするより、学年全体で準備、運営をした方が、充実した時間を生徒に提供できるうえに各教員の負担も軽減できると考えた。学年団の先生方の理解と協力も得られたので、学校全体での活動が指定されている時間を除いて、ホームルーム活動とその関連から総合的な学習の時間については、学年全体で取り組む機会を多く設けることとした。

3. 実践の振り返り

(1) 実践事例

1) 大学散策（平成26年4月10日（木）・総合）

大学の附属高校としての本校の利点を生徒が感じ取ることができるようにという思いから、初めて学年独自の行事として実施した。



【散策中の生徒の様子】

2) クラス対抗綱引き大会（4月14日（月）・ホームルーム活動）

*以下、ホームルー活動を本校での呼称に合わせてLTと表記

まだ、入学間もない生徒たちであったので、クラス内そして学年全体での交流の場が必要と判断して、6月に行われる体育祭への意識付けも兼ね、レクリエーション活動を行った。



【綱引きの様子。入学して間もない生徒たちであったが、クラス間の交流も広がっていった。】

3) 1年生に贈る会（平成27年3月16日（月）・L T）

本校では3年生の授業最終日に「3年生を送る会」を実施している。この生徒会活動を参考にして一年間、よく頑張ってきた生徒たちに学年団から贈り物をした。会の内容は、学習、行事など様々な観点から特に努力した生徒への表彰、1年間の思い出のスライド写真、学年団による演奏である。なお、翌年度も、これに倣い2年生に贈る会を実施した。



【一年生に贈る会の様子。学年団の協力により、多くの生徒の笑顔を見ることができた。】

4) クラス対抗大縄跳び（平成27年5月25日（月）・L T）

前年に引き続き、体育祭の練習も兼ねレクリエーション活動の場を設けた。2年次から文理にクラスが分かれており、男女比が異なるため、種目を変更して実施した。



【大縄跳び大会の様子。】

5) 沖縄縦断ウルトラクイズ（平成27年10月22日（木）・総合）

本校では修学旅行を総合的な学習の時間の一環として位置づけ、事前指導と事後指導の充実を図っている。昨年度の修学旅行の直前には、事前学習の総仕上げとして「沖縄縦断ウルトラクイズ」を実

施した。修学旅行前の雰囲気作りとしての効果だけでなく、「事前学習の確認ができて良かった」という生徒の意見もあった。なお、修学旅行後には、各教科に関連した内容で「教科横断ウルトラクイズ」を実施した。



【0×クイズの様子】



【決勝早押しクイズの様子】

*早押し測定器はかつて本校に在籍した理科教諭が手作りしたものである。

6) 百人一首大会（平成28年1月21日（木）・総合）

本校では、国際交流活動の一環としてオーストラリアの Ivanhoe Grammar School と交換留学を実施している。留学生の受け入れ時期に異文化交流を深める目的で、留学生を交えて百人一首大会を実施した。なお、1年次にも百人一首大会を実施したが、あまりの寒さで各教室に分かれての実施となったため、本校生徒にとっても、全員揃った状態で実施する初めての百人一首大会であった。



【百人一首大会の様子。私も留学生に混じって参加させてもらったが、最下位に終わった。】

(2) 学校行事アンケート

1) アンケート結果

2年終了時に過去2年間の学年行事に関して、生徒に以下のようなアンケート調査（一部省略）を実施した。

学年行事アンケート

1・2年生の総合学習やL Tの時間で行った学年行事について、皆さんの意見や感想を知りたいと思います。以下の質問に教えてください。

1 今までの学年行事で印象に残っているものを次の中から3つまで選んで、○で囲んでください。

2 1で答えた行事はなぜ印象に残っていますか？

3 来年度、このような行事があるといい、あるいは企画したいというものはありますか？

4 学年行事の後、学校は楽しいと思えましたか？（当てはまる番号を○で囲んでください）

(1) 思う (2) まあまあ思う (3) どちらとも言えない (4) あまり思わない (5) 思わない

111 (56.3%) 52 (26.4%) 19 (9.6%) 13 (6.6%) 2 (1.0%)

5 学年行事の後、勉強への意欲は高まったと思えますか？（当てはまる番号を○で囲んでください）

(1) 思う (2) まあまあ思う (3) どちらとも言えない (4) あまり思わない (5) 思わない

25 (12.8%) 55 (28.1%) 74 (37.8%) 28 (14.3%) 14 (7.1%)

2) アンケート分析

質問1では、この報告で紹介した行事を含めて11回の主な学年行事の中から選ばせることとした。その結果は二年生に贈る会と沖縄縦断ウルトラクイズを選ぶ生徒が多かったのだが、質問2で理由を尋ねたところ、「最近のことなので、まだ強く印象に残っている」という記述もあり、アンケートの実施時期も結果に少なからぬ影響を与えたと思われる。当初はアンケートを実施するつもりはなく、途中から取り組みの成果を検証してみようと思いつき始め、2年終了時のアンケート実施となったが、成果の検証方法としては、行事毎のアンケート調査をする方が適切であった。

質問3では、生徒から企画したいという意見が多数出ることを期待したが、自ら企画したいと記述した生徒は5名ほどにとどまった。最初は教員側から企画をし、最後には生徒主体の企画をと考えていたが、切り替えるタイミングを逃してしまった。生徒の進路実現を考えると3年次に、生徒主体で学年行事を進めることは負担過重になるので、2年の段階で生徒主体に切り替えられるよう計画を立てていくのが、理想であろう。（実際に今年度、2年次までと比べて学年行事の回数は大きく減らしている。）

質問4では好意的な評価が8割を超え、また、質問5については好意的な評価は少ないと予想していたが、4割の生徒は好意的に捉えていた。学年行事が学力向上に繋がったかどうかの判断はできないが、学校での生徒の毎日の様子を見てみると、学年行事がそれぞれの生徒の学校生活や学年の雰囲気作りに与えた影響は決して悪いものではないと判断している。

4. おわりに

学年の団結を深める一つの方法として、毎月1回何らかの節目の日を「グリーン・デイ」として、

学年団の教員で第42回生の学年カラーである緑色のものを身に着ける日としてきた。生徒には秘密にしてきたが、多くの先生方に協力していただき、平成28年5月に、生徒が「グリーン・デイ」の存在に気付いていることがわかった。学年集会などでも、学年カラーの緑のもとに団結することを訴えたことがあったが、生徒の口からも「緑学年」という言葉が飛び出すようになり、生徒たちが選んだ卒業アルバムの題字までが「緑」になった。これまでの3年間の学年作りにご助言やご協力をいただいた先生方、そしてそれに応えてくれた生徒たちに対して、感謝の気持ちで一杯である。

5. 参考文献

文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』 海文堂出版

足立敏（2010） 学年レクリエーションで活用できる「早押し判定装置」の製作

—学習教材としての可能性をさぐる— 本校研究紀要第37号、pp37-42